

# いざなみ

No.185  
2018年11月

平成30年度  
長崎ゆかりの文学企画展 「県立長崎図書館106年の軌跡」

開催中 平成30年11月30日(金)まで



県立長崎図書館では、本県にゆかりのある作家や文学作品を中心に、毎年企画展を開催しています。

今回は県立長崎図書館の移転にともない、「県立長崎図書館106年の軌跡」として、本館の歩みを振り返る企画展を開催しています。

主な展示資料は、図書館写真（旧館外観・閲覧室ほか）、芳名録（芥川龍之介、菊池寛、柳田國男、司馬遼太郎ほか）、直筆原稿（野呂邦暢『草のつるぎ』、林京子『祭りの場』ほか）、掛軸（佐多稻子、長岡半太郎ほか）などです。

また「明治150年」に関連して、本館所蔵の明治期の資料を展示しています。

企画展は、11月30日(金)まで開催しています。ぜひお立ち寄りください。

## 「福田須磨子関係資料」寄贈式



豊後全賢さん(右)、豊後和寛さん(左)から  
目録を受け取る林田誠一館長(手前)

平成30年8月4日(土)に、生活記録として自らの被爆体験を記し、原爆の不条理を訴え続けた作家の福田須磨子の甥である豊後全賢さん・和寛さんご兄弟がご来館され、約500点の資料を寄贈してくださいました。

寄贈していただいた資料は、未発表の詩が記されているノート、写真、代表作「われなお生きてあり」の原稿などたいへん貴重な資料ばかりです。

豊後さんは、寄贈の理由を「寄贈は母(福田須磨子の姉の豊後レイコさん)の遺志であり、自宅に飾っておくよりも県立図書館で皆さんに見ていただくことで叔母の

資料が“生きたもの”になるから。」と話してくださいました。

資料の一部は、企画展において展示中です。ぜひご覧ください。



未発表の詩「鏡の中の自分へ」

- ◎平成30年度長崎ゆかりの文学企画展 .....P 1  
 ◎「福田須磨子関係資料」寄贈式 .....P 1  
 ◎館長挨拶 .....P 2  
 ◎新図書館の紹介 .....P 3  
 ◎写真で振り返る県立長崎図書館 106年のあゆみ .....P 4 ~ 5  
 ◎県立長崎図書館の思い出 .....P 5

- ◎ボランティアの方々の声 .....P 6  
 ◎県立長崎図書館協力車の紹介 .....P 6  
 ◎資料紹介(県立長崎図書館創世期の資料) .....P 7  
 ◎県立長崎図書館模型 贈呈式 .....P 8  
 ◎県立長崎図書館からのお願い .....P 8  
 ◎休館中のサービスについて .....P 8

もくじ

# 県立長崎図書館のこれまでとこれから～「知の拠点」として～

館長 林田 誠一

県立長崎図書館の敷地の一角に「古賀十二郎先生を讃える碑」が建っています。古賀氏は言わざと知れた長崎研究の先駆者であり、泰斗です。碑の背面に「明治末県立図書館の開設は先生の尽力に成る」と書かれています。明治45年（1912年）、新橋町（現在の諏訪町）に開館した県立長崎図書館は今年で106年目となります。その歴史の始まりに、また、その後の発展に、古賀十二郎氏をはじめとする多くの方々の働きかけがあったのでした。

長崎図書館が現在の場所に移転したのは大正4年（1915年）、現在の建物に建て替えられたのは昭和35年（1960年）のことです。今では周りの木々も四階建ての建物とほぼ同じ高さに成長しました。幹はコケに覆われ、枝々は豊かな緑を蓄え、まさに「時間」そのものを栄養分にして育ってきたのではないかと思ってしまうほどです。

開館時、約2,400冊だった蔵書は、昨年度末で約122万冊になりました。これは、九州・沖縄の県立図書館の中では最多です。書庫に足を踏み入れると、しんとした空気の中に、開かれ、読まれる時を待っている文字のひそかなざわめきが聞こえてくるようです。

この4月に館長となりました林田誠一と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。皆さんには平素より県立長崎図書館をご利用いただき、心から感謝いたします。

個人的な思い出話を書くことをお許しください。私が初めて長崎図書館を訪れたのは、高校の国語教師となって3年目、昭和61年（1986年）のことでした。長崎の原爆文学について原稿を書くことになった私は、放課後や休日にせっせと通いつめ、郷土課所蔵の原爆文学を手当たり次第に読み、稚拙ながら、原稿用紙40枚ほどの文章を書き上げました。今読み返せば、自らの蛮勇に冷や汗の出る思いですが、当時の自分が持っていた熱量をまぶしくも感じます。いずれにせよ、20代の少なくない時間をここで過ごした経験は、今でも私の中に轍のようにくっきりと残っています。

現在、年間に約30万人が長崎図書館を利用してくださっています。中には、何十年にもわたってご利用いただいている方もいらっしゃるでしょう。また、長崎の地を離れても、長崎図書館での思い出を大切に持っている方もきっといらっしゃるに違いありません。関わり方は人それぞれあっても、長崎図書館が「知の拠点」として多くの人々の生活や人生に欠くことのできない役割を果たしてきたことに間違いはありません。これもひとえに長崎図書館に関わってこられた先人たちのご労苦とご厚情の賜物であると、深く敬意と謝意を表したいと思います。

県立長崎図書館は、新たな「知の拠点」となるべく、大村に、大村市立図書館との一体型図書館として生まれ変わります。愛称は「ミライオン図書館」です。来年1月に建物が完成し、11月末に開館予定です。長崎を離れることを惜しむ声もございますが、新図書館への期待の声も同じようにございます。また、現在の敷地に新しく建てられる郷土資料センター（仮称）に対する期待の声もございます。

106年の歴史を偲びつつ、新図書館及び郷土資料センターが、県民の皆様に愛される図書館となるよう、関係者一同、力を合わせてまいりますので、これからもご支援をよろしくお願いします。



# ミライon図書館 を紹介します!!

平成31年11月末ごろ開館予定

## (1) 施設概要

- ・延床面積 約11,700m<sup>2</sup> (6階建て)
  - 1階 … こどもしつ (4万冊)、  
多目的ホール (200名) など
  - 2階 … 学習スペース (130席)、  
グループ学習室 (6名×4部屋) など
  - 3階 … 一般資料開架・資料閲覧スペース  
(21万冊・240席)  
雑誌・新聞コーナー、パソコンコーナー、  
予約本コーナー、対面朗読室など
  - 4階 … 資料閲覧スペース (120席) など
  - 5階 … 書庫 (6階…機械室など)
- ・収蔵能力 202万冊
- ・駐車場 約200台
- ・サービスの新設・拡充  
自動貸出機の設置、  
課題解決支援サービスの充実、  
タブレット端末の貸出、  
Wi-Fi環境の整備など

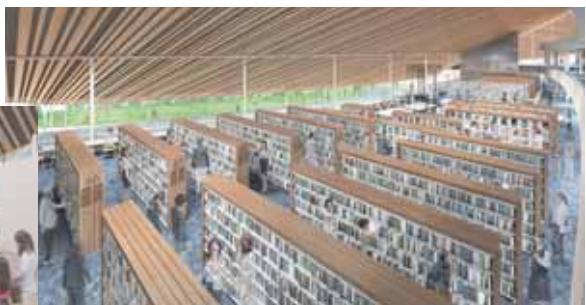


現在の県立長崎図書館と比べてみると…

- 延床面積 約**2.3倍**!
- 収蔵能力 約**2.9倍**!
- 駐車場 約**9倍**!



↓ 1階こどもしつ



↑ 3階一般資料開架・資料閲覧スペース



## (2) 交通アクセス



徒歩 約3分 約220m



徒歩 約3分 約220m

長い間、当館をご利用いただきましてありがとうございます。今後、当館の3階及びこども室の資料は大村市に建設中のミライon図書館へ移転となります。大村駅から徒歩約3分と近く、駐車場は約200台を備えます。開館日など決まりましたら県のホームページ、情報誌等でお知らせします。また4階の郷土資料については、現在の建物を取り壊した後に建設する郷土資料センター（仮称、平成33年度開館予定）で所蔵し、長崎歴史文化博物館と連携しながら提供していきます。皆様のご利用、ご来館をお待ちしております。

# 写真で振り返る県立長崎図書館106年のあゆみ

## ～本館の変遷～



交親館（撮影年不明）



長崎図書館落成式（大正4年）



戦争による被害で大破し改修（昭和26年頃）



新館落成(3階建て)（昭和35年）



当屋上にあったレストラン（昭和35年頃）



4階(史料館)増築（昭和43年）

県立長崎図書館は、長崎県回覧文庫等を基として明治45年6月1日に創立し、長崎市新橋町に開館しました。その後、大正4年に長崎市上西山町（現在の立山1丁目）の交親館（県会議事院兼外賓接待所）を図書館として改修し、この地に移転しました。昭和20年の原爆投下により本館庁舎西側が被害を受けましたが、その年の10月から閲覧業務を開始し、昭和24年には戦前通りの業務に復旧しました。昭和35年には、長崎国際文化センター建設事業の一環として新館が建てられました。当時は3階建てで、屋上にレストランがありました。昭和43年、明治百年を記念し、4階を増築し史料館を新設、現在にいたります。

## ～図書館利用の変遷～



旧館 受付（撮影年不明）



「普通閲覧回数券」（撮影年不明）



新館 読書室（撮影年不明）

大正4年当時の本館利用者は、官公吏及官公立学校職員、国県郡市の議員、保証金（年額2円）を納めた人などの制限がありました。大正8年の規則改正では、閲覧料として1回3銭を徴収、回数券制度も設けられました。この有料閲覧制度は、昭和12年4月まで継続されました。また、昭和35年の新館開館後は、来館者は受付で座席指定券をもらい、その番号に着席することが義務づけられていました。この制度は、昭和54年4月1日に廃止されました。

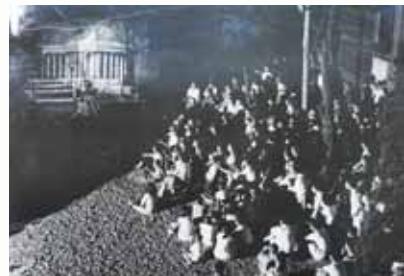
## ～ 様々な催し～



子供会レクレーション（撮影年不明）



童話コンクール（昭和30年代）



納涼映写会（撮影年不明）



おはなし会（昭和53年）



吉村昭展(中央は吉村昭氏)（平成15年）



林京子氏(右)・田中俊廣氏(左)対談（平成16年）

県立長崎図書館では、様々な催しを開催してきました。戦前に開催されていた童話会を昭和24年から子供会として復活し、毎週第2・第4土曜日の午後開催しました。昭和30年代になると図書館の活動は広範囲に及び、各種研究会、講座などが行われるようになり、昭和31年に始まった小学生童話コンクール県大会は、名称を変えながら平成7年まで続きました。昭和41年度は毎週木曜日を定例映画会とし、年間52回の映画会が行われました。昭和53年には有志により発足した「読み聞かせの会」による「おはなし会」がはじまりました。平成16年からは長崎に関連したテーマを基にした「図書館講座」を、平成17年からは「長崎ゆかりの文学企画展」を開催しています。

## 県立長崎図書館の思い出

県立長崎図書館では、平成30年度長崎ゆかりの文学展企画展「県立長崎図書館106年の軌跡」にちなみ、皆様の県立長崎図書館に関する“思い出”を募集しております。今回、お寄せ頂いた“思い出”の中から一部を紹介します。

小学生一年生の夏休み、母に連れられて初めて来ました。何を読んだのかはよく覚えていませんが、「小さなロバのグリゼラ」だったような気がします。中学生のとき、たまたま落語の本を見つけて読みふけったのはいいのですが、閲覧室で笑いをこらえるのに必死でした。(それ以来落語が好きになりました)

今は学術書、ミステリー、語学、民俗学など様々な分野をふらついています。「読む楽しさ」「そこから色々調べる楽しさ」「知識を身に付ける楽しさ」をここで学びました。ありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願い致します。（40代）

高校時代、学校帰りに使わせてもらいました。上京後も、帰省中に調べ物があると来ました。長崎公園の一角にある、この図書館の雰囲気が好きでした。今後の新たな展開を楽しみにしています。（40代）

大変長い間、利用させていただき、有難うございました。休館といっても、無くなるような感じです。一般図書の他に、県下のパンフレット等もあり、利用させてもらっていました。移転後、この地に何らかの施設を残していただきたい。また、大村の図書館を遠い土地からも利用しやすいようにしていただきたいと思います。長い間、大変ありがとうございました。（無記名）

## 今までお世話になったボランティアの方々の声を紹介します

読み聞かせボランティア

川口千香子さん

毎週土曜日、少ないメンバーで日程調整をしながら、心を込めて丁寧に絵本を読み続けてきました。

一期一会の子どもさんもいれば、毎週のように土曜日を楽しみに親子で参加する方もありました。静かにしっかりと聞いている子、恥ずかしそうにチラチラ見ている子、読みながら読み手自身も一緒にお話の世界を楽しんでいました。

職員の皆さんとともに長く最後まで活動を続けることが出来ましたことに心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。



▲「どうぞのいす」作・香山美子 絵・柿本幸造 出版・チャイルド社

### おはなし会

毎週土曜日  
午前11時から  
(30分程度)

対象：乳幼児～  
小学校低学年

「おりがみ教室」ボランティア

大西 律子さん

おりがみ教室を20年近く行ってきました。元々は装飾のためにおりがみを作っていましたが、当時の職員の方から「おりがみ教室をしませんか?」と誘っていただき、おりがみ教室を始めました。最初は手探りで何もわかりませんでしたが、子どもたちが定期的に参加してくださり、その子たちが成長していくとともに自分も成長をしていくことができました。

また、おりがみ教室が子どもたちだけではなく、お母さんたちの交流の場になることができてよかったです。今までありがとうございました。



### おりがみ教室

毎月最後の日曜日  
午後3時から  
(1時間程度)

対象：乳幼児～  
小学校低学年

## 県立長崎図書館協力車の紹介

県立長崎図書館協力車の前身は、昭和35年に発足した「自動車文庫」です。自動車文庫は、図書館が整備されていない市町村の公民館などに資料（本）を積んだ車で巡回をし、地域住民に直接資料を貸出することを目的としていました。



その後、市町立図書館の整備が進み、平成11年からは自動車文庫に代わり、協力車としての運行を開始しました。協力車の目的は、市町立図書館からリクエストがあった資料（本）の配達や職員訪問による情報収集・伝達、相談受付などです。このように県立長崎図書館協力車は、様々な活動をとおして長崎県の図書館活動を推進するための重要な役割を担っています。



諫早図書館で本の積み下ろしをしている様子

本土地区市町立図書館等  
を4コースに分けて2週間ごとに巡回を行っています。

協力車が運行しないときは資料の発送を行い、少しでも早く最寄の市町立図書館へ届くように努めています。



口之津図書館で本を受け渡している様子

# 資料紹介

## 県立長崎図書館創世期の資料

長崎図書館は、明治45年に開館してから106年の歴史があります。その創世期からの資料には戦火を逃れた貴重な本が残されています。郷土資料の一部は長崎歴史文化博物館に移管されましたが、現在も本館が所蔵している資料の一部を紹介します。

### 「長崎文庫」

資料の散逸を防ぐとともに地方史研究の基礎を作ることを目的に、安中半三郎・香月薰平によって明治27年に設立された、長崎で最初の私設図書館の蔵書です。

明治45年に県立長崎図書館が創設されたのち、大正元年に私設図書館は解散し、蔵書は大正4年に当館へ寄贈されました。

(資料例) 大奥の女中 池田 晃淵／著 富山房／出版 1896年刊



大奥の女中

### 「古賀文庫」

長崎学の基礎を築いた古賀十二郎氏からの寄贈資料です。昭和30年に寄贈されました。その多くは歴史資料として、平成17年の長崎歴史文化博物館開館により同館へ移管されましたが、本館にも一部保存されています。

(資料例) 市民教育資料 勝山尋常小学校／編  
勝山尋常小学校／出版 1925年刊



アイヌ英和辞典及アイヌ語文典

### 「西高等学校文庫」

旧制県立長崎中学校の関係文献や旧蔵資料で、県立長崎西高等学校に引き継がれましたが、その後、昭和37年12月に当館が受贈した資料です。寄贈された資料の中には明治期の教科書や参考書類が多く含まれており、旧制中学校の図書館がどのような蔵書を持っていたのか確認できます。

(資料例) アイヌ英和辞典及アイヌ語文典 2版 ジョン バチェラー／著  
教文館／出版 1905年刊



長崎県公報

### 「長崎県公報」

本館では、第1号から最新号までの「長崎県公報」を所蔵しております。本館ホームページで1890年（明治23年）7月の第1号から1935年（昭和10年）12月の第2381号までの目次の検索と内容の一部をデジタルデータで閲覧することができます。

## 県立長崎図書館模型 贈呈式

平成30年3月27日、模型を製作した県立長崎工業高校の卒業生と、指導された武田教諭に出席していただき、当館2階ロビーで贈呈式を行いました。建物が取り壊されることが決まり、現在の県立図書館の姿を後世に残すことができるよう、本館より同校へ製作を依頼したものです。

この100分の1サイズの模型は、インテリア科の生徒8名が平成29年度課題研究として取り組んだもので、図面を基に



しながら、現地での測量や調査を行い、約10か月の期間で製作してくださいました。2階ロビーに展示しています。

また、大正4年から昭和34年まで使用された旧館の模型も、当館の創立100周年記念事業として平成24年6月に同校より寄贈していただいている。当時のインテリア科の生徒6名が約9か月かけて作ってくださったもので、こちらの模型は4階郷土資料展示室に展示しています。ぜひご覧ください。

## 休館中のサービスについて

当館では休館中のサービスとして、こども室を利用し、移転に支障をきたさない範囲でのサービスを予定しています。（サービス開始時期は、平成31年1月頃を予定）

※本の貸出、レファレンスサービス、複写サービスはできません。

### <一般資料の閲覧サービス>

- 開架資料
- ・図 書（平成31年9月まで）約2,200冊  
(児童書の閲覧サービスは行いません。)
  - ・新 聞（平成31年9月まで）8紙
  - ・雑 誌（平成31年9月まで）約50誌

日程等が決まりましたら  
ホームページで  
お知らせします。



### <郷土資料の閲覧サービス>

カウンターでの申し込みによる閲覧のみ可能

※開館日・開館時間 平日10時～17時  
駐車場はご利用いただけません。

また、以下のサービスは平成31年3月までホームページでご利用いただけます。

- 蔵書検索
- 横断検索
- 新聞記事見出し検索
- 県公報目次検索

## 本の返却のお願い

借りたままになっている本はございませんか？図書館の本は県民共有の財産です。  
万一、返却されていない本がありましたら、ご返却をお願いします。

※玄関横の返却ポスト（24時間可能）へも返却できます。※県立図書館で借りた資料は、県立図書館へ直接返却してください。